

「とっとり県民の日」に対する意見募集の結果

募集期間	平成17年10月3日(月)から10月31日(月)まで
募集対象	県民(市町村と無料開放等特典実施施設に対しては、別途文書で回答を依頼)
応募・回答状況	①県民 2件(Eメール1件、県民室募集箱1件) ②市町村 17件(19市町村中) ③無料開放等特典実施施設 15件(43施設中)

(1)「とっとり県民の日」のあり方に対する意見

- ①県民の日はどのような日であるべきかについての意見
- 美化活動を行う日、スポーツ・文化活動への関心を持ってもらう日、県民が積極的に行動できる日、「鳥取が好き」と思える日、鳥取県に生まれて良かったと思える日
 - 県民の日があるから何かしないとイケないということではない。
- ②県民の日の必要性についての意見
- 行政主導で県民のコンセンサスを得ていない。県民の意見を聞くなどの検証が必要。
 - 県民の意識を高め、連帯感を維持するために必要。
 - 県民のほとんどが知らないようなものであれば必要ない。
- ③県民の日の取組の基本的な方向についての意見
- 県民の日の意義を共感し、感動できるようなムード作りが必要。
 - 県民の日のメリットを県民に知ってもらうことが重要。
 - 子どもに視点を置いた取組が必要。

(2)「とっとり県民の日」に関する県のこれまでの取組状況や今後の取組方法に対する意見

- ①県の取組についての総括的な意見
- 県職員の意識が低い。県庁からの盛り上げが必要。
 - イベントではなく、実感し、再発見できるような取組が必要。
 - 県民、民間団体、NPO等の主体的な取組とすべき。
 - 鳥取県の歴史を振り返ることができるような取組を一貫して行うべき。
- ②今後の取組についての意見
- 県民の日前後の1週間位を県民の日週間とする。
 - 県民の日の趣旨に合う事業、県民が多数参加するような催し物に補助金を出す。
 - 鳥取県の人、もの、自然に関する情報の発信を行う。
- ③広報活動についての意見
- 大々的なPRが必要。
 - 時期を限定せず、年間を通じてPRしたほうがよい。
 - 制定の経緯のPRに力を入れるべき。
- ④イベントの開催についての意見
- 目玉的なイベントの企画が必要。イベントの参加者に粗品を配布する。
 - 県民の日といえば「・・・」といった恒例事業を行う。
 - メインテーマを定め、それに沿ったイベントの開催を働きかける。
- ⑤施設の無料開放等についての意見
- 県の関連施設の参加が少ないのに、民間や市町村が積極的に取り組むか疑問。
 - 県民が県内の施設を知る上でよい機会。
 - 県民の日だから施設を無料開放するというのは、あまり意味がないように思う。

(3) その他の意見

- 行政主導ではだめ。
- 住民の認識が深まっていないのは、歴史的な背景から鳥取県の再置への関心が低いこと、県民の日の制定が時代にそぐわず住民の関心を呼ばないことにある。
- 親しみやすいサブテーマがあれば、趣旨がより伝わりやすくなる。
- サブテーマがあれば邪魔にはならないが、あまり意味はない。
- 年々のテーマを定め、サブテーマとするのがよい。